

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070500588		
法人名	特定非営利活動法人ひだまり		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	長野県飯田市駄科841-1		
自己評価作成日	平成22年1月2日	評価結果市町村受理日	平成22年4月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070500588&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれ役割を持ちできる事はやっていただく。大きな声でしゃべったり笑ったりにぎやかです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域からの希望で作りに上げてきた宅老所から始まり、開設9年目を迎えるグループホームである。ホームは、閑静な住宅地の中に位置し、民家を回収した自分の家のような暖か味のあるホームである。利用者と一緒に大きな声でおしゃべりしたり、笑ったり楽しい時間を過ごしている。食材は、ホームの畑で栽培された季節の野菜や近所のお裾分けを頂き、利用者は漬物を付けたり、行事食と一緒に作るなど「仕事」とし、これが生きがいとなっている。管理者及び職員は、地域密着型サービスの意義を理解しながら、利用者に対する「その人らしい暮らし」に向けて、常に前向きに取り組もうとする姿勢が伺われる。また、法人内の持つ力を活かした「いきいきデイ」や子育ての支援等の活動も行われ、更に地域への貢献度が増してくること期待される。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はあるが施設独自の理念はできていない。	法人の理念は作成されているが、事業所独自の理念が作られていない。管理者や職員は事業所独自の理念の必要性を感じている。	地域密着型サービスとしての意義や役割をふまえて、事業所独自の理念を作り上げていくことが大切である。全職員が理念を共有し、日々の実践の中で具現化していくことを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会や文化祭への作品提出など、できる限り参加している。	地域の文化祭等の行事には、地域の誘いもあり積極的に参加している。また近所のお年寄りの訪問やボランティアの交流も頻繁に行われている。自治会の加入はしていないが、協力金はあり、地域のゴミ出し当番には出勤して、利用者が地域の一員として生活をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の支援をするのが精いっぱいなかなか地域の人々に目を向ける事は出来ないのが現状です。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域御家族の方々にひだまりの活動を理解していただき、様々な意見をいただいているように取り組んでいる。	2ヶ月に一回の会議には、利用者家族の出席もあり、ホームの活動状況や行事予定など話し合いを通じて、意見を頂きながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時は連絡を取り合っている。	市担当者には、時ごろの事業所運営に疑義が生じた時に連携をとり、グループホームの実態を知ってもらい、利用者へのサービス提供が円滑なものとしている。	

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないとすべての職員が思っ てケアをしているが法的理解はできていな い。	職員会等で日々のケアの振り返りを行って いる。利用者の気分や状態をキャッチし、 鍵をかけない自由な暮らしを支援してい る。	管理者はじめ職員は、拘束しない方針を徹 底し、気づきを養う研修会や事例検討を通 じて安全を確保しながら暮らしを支援す ることを職員間で取り組まれることが大切 である。ホームとしても必要性を感じてい るので今後を期待している。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、 防止に努めている	職員全員がそのように取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	できていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書で説明するが、 一部持ち帰って検討していただき、わから ないことなどを再度説明させていただいて いる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	契約時や推進会議の際意見や要望を言っ てくださる様お願いしているが職員に聞こ えてくる事は少ない。	家族等来訪時に、意見や要望、苦情等を 伺うように努めているが、意見等が少な い。また事業所以外の外部の人に意見や 苦情を表せる機会等を設ける検討がされ ている。	家族等の来訪時に職員から声がけし、意 見や要望を聞き、頂いた意見等は職員会 で検討し改善へと繋ぐ事が、サービスの質 の向上及びホームの運営へ活かされるの で積極的に取り組まれることを望む。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて意見を聴き、できる 事は反映させている。	代表者や管理者は、日常対話や職員会に て現場の意見等を聞く機会があり、ホーム の運営についても代表者から、毎月の事 業支出等の提示があり内容を検討してい る。このようにして職員からの提案を運営 に反映するよう努めている。	

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人の運営会議(月1回)の際、代表者に職員の状況を報告しているため、把握してくれていると思う。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全員が研修参加することは難しい状況だが、徐々に学ぶ機会を増やしていけたらいいと思う。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設からの見学や研修など受け入れている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の情報を元に、御利用者の声に耳を傾けながら、しっかりとした信頼関係が築ける様に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>施設内をみていただき、希望等を伺い、御家族にも安心していただけるよう努力している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>御利用者の情報を元に必要なサービスをどう受けていただくかを相談し、選択していただいている。</p>		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることとできないことを見極めて、できる事はご自分でしていただき、それぞれ役割を持って生活できるよう支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は一緒にお茶を飲み、話をさせていただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者やご家族の方の対応にお任せし、特に制限はしていない。	本人がこれまで大切にしてきた、近所の友人や家族がホームに遊びに来たり、お墓参りや地域の行事がある時は、家族が迎えに来て行事に参加している。このようにホームでは、かけがいのない人や場の繋がりが途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者の方達の様子を見ながら対応している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は特に何もしていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で把握に努めている。	開設以来の職員もあり、日々接する中で把握している。時には、利用者の居室で話を聞いたり、また把握が困難な利用者には、本人が何気なく言った言葉や小さいサインを逃さないよう受容を念頭に置き、努めている。	

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者のお話、御家族、知人の方の面会時などに情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に一緒にいる状況なので把握できていると思う。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回の職員会に様々な情報を持ち寄り、ケアプランの見直しをしている。	毎月一回の職員会に利用者の情報を持ち寄り、見直しを行っているが、本人や家族の意向の反映が少ない。チームとして本人本位の話し合いにより、介護計画を作成する必要性を感じている。	介護計画は、本人や家族の意向を反映しながら、日々の記録を活用し、目標に向けて課題解決のためチームで意見交換して、アセスメントを行いモニタリング、カンファレンスを行って、話し合った結果を基に作成することを期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察記録に記入し、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者の状況、家族の状況に合わせて柔軟な対応をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	宅老所へ健康体操に行っている。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設として病院を指定することはなく、かかりつけ医に受診している。	定期的に主治医の往診があり、治療が必要な場合は、家族も受診に同行し、主治医から説明を受けている。職員が通院介助する場合は、その結果を家族に報告し、利用者の健康管理が適切に行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と相談しながら対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者、御家族の希望をお聞きしながら必要な対応をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期に向けた支援について職員間で話をしている。	重度化に向けた指針は、概ね作成されているが、職員の不安もあり学習を行いながら契約時等に利用者や家族等にホームとしての方針の説明をして、同意書を交わすことを検討している。	出来るだけ早期から、利用者全員と話し合いの機会を作り、意向を確認し、重度化や終末に向けた支援を念頭に置き、ニーズに応じて医師や家族、職員と連携をとりながら急変時の体制を整えていくことを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	できていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っている。その中で避難方法を身につけていきたい。	マニュアルを作成し、利用者と共に年2回のホームの防災訓練を行っている。訓練後は、反省会を実施し出された意見を今後活かすよう話し合われている。	

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	声のかけ方など職員会議で話し合っている。	職員は、利用者に沿った言葉がけや接し方に努めているが、ケア場面において、不十分な場面も伺われる管理者はケアの現場で人権を尊重する接し方等気づきを促している。	実践の中で、高齢者介護のキーワードは「尊厳」であることを強く意識しながら、支援することが必要である。気づきを養う研修会等を通じて、プライバシーを損ねることの無い言葉がけや、接し方に努められることを望む。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に沿って対応していきたいができていないことも多い。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者優先のペースをなるべく大切にしているが職員の都合も聞いてもらってしまっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来るだけ一緒にしていただいている。おはぎや五平餅づくりも行っている。	一人ひとりの嗜好も加味しながら、ゆっくり会話を楽しみ食事が出来るよう、職員は配慮している。利用者は、漬物を漬けたり、調理の下ごしらえ、味見など職員の何気ない支援も伺われる。買い物は利用者と一緒にいき、材料を選んでもらっている。食を通じて季節の話題も盛り上がっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、記録に残し摂取量を把握している。一人ひとりの食べる力に応じて食物の形態を工夫している。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はできていないが定期的に入れ歯洗浄剤にて洗浄、消毒している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者一人ひとりの力に合わせて、おむつ使用とトイレでの排泄を併用したりしている。	利用者一人ひとりに合わせたトイレ排泄を基本とし、職員による統一した声かけ誘導を実施している。24時間の排泄が記録され、介助が必要な利用者には、声かけのタイミングをはかったりサインを把握し、職員は自立に向けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、量などを記録しパターンを把握して対応している。様子により食物の工夫、緩下剤の調節をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御自分で入浴を希望される方は少なく、職員の働きかけで入浴していただいていることが多い。強引な誘いはせず、御利用者一人ひとりの様子に合わせて対応している。	週2回の入浴を希望する利用者も少なく、利用者のタイミングをはかって体調の悪い場合、清拭や足浴に替えたりしている。季節のゆず湯や入浴剤等も使用して、体調にあわせ一人ひとりが入浴を楽しむ支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子に合わせて対応している。必要時は医師に相談している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的は理解できているが副作用についてはほとんど理解できていない。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った役割を探し、できるように支援している。又、季節に合った行事等を行い楽しんでいただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物、ドライブなどはその日の様子を見ながら取り組んでいる。又ご家族が外出に協力してくれる事もある。	天気の良い日はホームの庭に出て、散歩や野菜の収穫作業、草花を眺めたりして気分転換を図っている。日常的な買い物やお花見を兼ねたドライブ等、利用者の希望を聴きながらいきいきと過ごせられるよう、外出支援を行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	御利用者がお金を管理することの大切さは理解しているが、施設内での紛失や利用者同士のトラブルなどの観点から難しいと考えてしまっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、季節のはがきを出す支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とホールが一緒になっており食事の支度の音、香りなど常に生活感がある。	共有の居間には、利用者が協力して作成した作品や、思い出の行事写真が飾られ、訪問者の目を留めている。台所とホールが一緒になっており、食事の支度の音や香りが、生活感を醸し出しながら暮らしの場を和やかにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは一人になれることは少ないが、自室や外のベンチで過ごしたり、他の部屋へ訪問したりと自由に過ごしていただいている。		

外部評価結果(グループホームひだまり)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者一人ひとりの状況や希望により模様替えをしたりしている。	居室には、利用者好みの家具等が配置され、作られた作品等が飾られている。居室の掃除を出来る利用者は、自分で整理整頓され、居室の模様替えをする時は、それぞれ希望に沿って職員がお手伝いをしている。利用者が穏やかな暮らしが出来るよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活を送っていただけるようベッドの配置など安全に過ごせるようにしている。		